

4 最後は「人」！そうは言っても、「その人の人生」までは踏み込めない?!が、…

堂本 彰夫

(1) 「相談役」と名乗ってはいるが、実際は、ほとんど役に立っていない、今の私?!これでいいのか?!

まず、あまりにも明瞭であるが、ここでの執筆が、大いに滞ってしまっている！書きたいことが、その後ないと言えば、それまでだが、何かここでの、まさに差し迫った、書きたいという欲動が、少々減退しているということである?!そのことは、残念ながら認めなければならない?!だが、やはり、その遠因はある?!あまりにも長引くコロナ禍（それに付随した数々の失政?）、2月から始まった、某国の他国侵略（暴虐）、そして、度重なる自然災害（豪雨災害等）や信じられないような事件・事故への悲憤慷慨や憂鬱が、ある意味悠長な「教育論」を書くことの虚しさ、書いていることへの不信、そうしたものを助長させ、それらが、夏の暑さと渾然一体となって、私の、論考への意欲を萎えさせているということである（否、ただの「加齢による怠け心」かもしれない?!）?!

しかし、こんな私がどうであれ、世界、国、そして、周囲の人々の厳しい現実がそこにはあるのであり、そうした現実の中で、今いる一人ひとは、精一杯生きているのである！そして、そこでは、それぞれの喜怒哀楽が繰り返されているのでもある（他ならぬ、元首相の惨劇も、その一つであろう?!）?!とは言え、かの「無常」と言えば、そうなのであろうが、今の私は、そうした、それぞれの生活（人生）を必死で生きているであろう、多くの友人、知人、卒業生達（もちろん、離れて住む娘や孫達も含めて!）の今、そして、これからを、半ば茫漠とした思いの中で思い遣ることしかできないでいる?!それこそ、先号（3）で、再び、「心ある人達」へのエールを送ってみたわけであるが、悲しい、否、哀しい?かな、その「心ある人達」との直接の出会い・交流の機会が、めっきり少なくなっているということである?!

ということで、論考減退の直接の原因は、もちろん、この、今般のコロナ禍による行動機会の減少にあるということであるが、一方で、それを出来ない理由に挙げ、自ら努力していない自分がいるということである?!そして、それが、今もなお、その相談役を名乗っている玉城青少年の家に対しても、おそらく、その最低限の役割しか果たしていないということである?!たまたにリクエストがあり、全体としての、彼らの仕事振りへのアドバイスや、個人的な人生相談?みたいなものも行ってはいるが（ほとんどが、電話やズームで!）、果たして、どのくらいの貢献をなして（喜ばれて?）いるのかどうか?!

要は、そのことも含めて、まさに最前線で働いている人達、とりわけ時代を創る若い世代の人達の課題や思いに、ほとんど応えていないということであるが、これが、現役を退いたものの宿命（哀れ?）とは言え、誠に悔しいということでもある?!ただし、そうだとは言え、こんなことばかりではないことも事実ではあるので（本当である!例えば、今現在、「古希」を迎えた高校時代の仲間との、月1回のズーム交流、そして、それを介した「こきこき通信」というミニコミ誌の発刊も行っている!）、「心ある人達」には、あらぬ心配はかけたくない!だから、ここで、実際は、ほとんど役に立つことはできないであろうが、もう一度、思いも新たに、その「心ある人達」にエールを送ることにしたい!そう思っただけ、再開だということである!

ちなみに、今年も、現在、あの「夏の甲子園」が繰り返されている!私も、かつて、花の?高校球児であったが（もちろん?甲子園へは行っていない!）、試合のことよりは、何故か、あの頃の、夏の暑さの皮膚感覚の方が、強く思い起こされる?!そして、テレビ越しに見る、体格的にも優れた、今の高校生達の姿が、ただただ眩しく感じられる!とにかく、遠い?昔の感傷とは言え、時代は変わったものである!そんなことを思いながら、以下、論を進めていくこととしたい!

(2) 最後は「人」！そうは言っても、「その人の人生」までは踏み込めない?!

と、その前に、最近、つくづく思っていることがある!しかし、それは、ある意味「口に出して、言うてはいけないこと!」でもある?!それでもなお、ここでは、一度書いておきたいのである!今の、自分の立ち位置（境遇?）も顧みず、そんなことを言うのも憚れるが（相変わらずの、上から目線ということである?）、どうしても、ここに、そのことを入れ込んでおきたいのである!それは、「どんな仕事、どんな活動においても、最後は『人』! そうなのではあるが、そうは言っても、『その人の人生』までは踏み込めない?!」、否、「踏み込んではいけない?!」、そういうことである?!

実は、このようなことは、まさに第一線を退いた（否、否が応でも退かなければならなかった?）人間の無力感、諦観?あるいは、ある意味での敗北感、はたまた内なる自己肯定感?を示すものかもしれないが、改めて、そのように思うのである!どんなに、その仕事・活動に、そうした行動や考え方（この場合は、「地域教育経営→地域学校協働活動→教育協働」）が必要だと言っても、多くの人（特に、結婚や子育て期にある人達）は、自らの生活状況（連れ合いや家族のこと等）を変えて、端的に言えば「犠牲にしてまで」（本当は、そうではないと思いたいのだが?）、そのようなことはしたくないと思うのである?!

さらには、どんな行動や考え方をしている、それだけでは、自らへの評価に繋がらないのであれば（給料と

か職階のアップとかである!)、多くの場合は、いわゆる「そこそこ」の仕事、活動に終始するであろう(それが、人情というものである?)?!与えられた業務(ノルマ)の範囲内ということであるが(もちろん、それさえも、場合によっては、かなりの負担や責任が伴うが!)、「それは、それでよい!」ということになる?!ある意味、それで、精一杯だということでもある?!

尤も、別な価値観、考え方、あるいは仲間内で、自らを律し、その限りにおける仕事や活動を行っている人も、一方で、多々いるわけであるので(「政治的なもの」はともかく、近年では、そうした傾向が、さらに強まっている?)、まさしく、「最後は『人』!そう言い続けても、『その人の人生』までは踏み込めない?!」ということが、さらに強固なものとなるわけである?!ましてや、「誰の仕事、行動が良いのか」なんて、誰にも言えないし(分かることは分かるが!)、言ったところで、ただそれだけでは、事態は変わらない?!

しかも、実際は、そうした人達(の多く)の、一方では「あからさまの」、他方では「隠微な」戦い?もあるわけであるので(それによって、他ならぬ、自らの人生を壊されたり、居場所/立場を奪奪されたりする人もいる?)、「最後は人!」とか、「その人の人生までは踏み込めない!」とかというような言質は、それこそ「綺麗ごと(善ぶった言い振り?)」のような気もする?!大切なのは、その人が、何が大切だと思ひ、その仕事や活動を行っているのかであり、それを決めるのは、他ならぬ「その人自身」なのだから(考えてみれば、至極当然であるが?)!

(3) そんな中、嬉しい、そして頼もしい「心ある人」が、今また(まだ?)、私の目の前にいる!!

とまあ、こんなことを思いながら、この間の日々を送っていたわけでもあるが、そんな中、嬉しい、そして頼もしい「心ある人」が、今また(まだ?)、私の目の前にいる!!是非、今回は、その人のことを取り上げたい!正直、まさに、その思いこそが、新たな、ここでの私の論考を誘ったのもある!こんな人がいるのである!そして、こんな素敵な人が、今の私の思いに答えてくれているのである!

改めてであるが、その人は、K県のNさんという人である(確か、以前にも紹介したことがある?否、絶対にした!)!近々行く、第39回「教育協働セミナー」の話題提供者である!事前に送られてきた「発表用資料(PP)」は、上記のことを余すことなく示す証拠であるが(質量ともに、驚きのものである!ここでは、具体的に紹介できないのが残念である!)、その別途作成のレジュメには、彼女の想いと活動の大枠が、改めて示されている。繰り返しになるが、何という人(私の言う「心ある人」)なのであろうか!

しかるに、今回の話題提供(発表)のタイトルは、「K市型地域共生社会の実現に向けた社会教育士の役割と課題~学校と地域と行政との協働による『プラットフォーム』化~」とある!今年、教職(中学校)を退かれて、新たに、一般社団法人「学校地域協働活動・家庭教育支援・世代間交流センター『もうひとつの大きな家族』」を立ち上げられ、仲間のみなさんと共に、鋭意地域活動(学校地域協働活動・家庭教育支援・世代間交流)を始められているわけである!その「学校地域協働活動」「家庭教育支援」「世代間交流」という三つの分野は、例えば行政的には、一般的に、それぞれ違った対応がなされるわけであるが、その三つは、決して別々のものではなく、互いに緊密に関わりあっていく必要があるという実感(信念?)が、そこにはあるということである?!

ただし、「社会教育士の役割と課題」という位置づけは、半分は、自らが、一昨年度?取得された「社会教育主事資格」の活用への意欲を示されていると思われるが、一方では、「社会教育主事」や「社会教育士」への期待とエールを送り続けている、私の「教育協働」への呼びかけに、意図的に心を寄せていただいているものとも受け止められる!まさに、私の言う「心ある人」そのものなのである!

とにかく、彼女(達)が目指しているものは、「地域共生社会の実現」である?!教育や福祉等、様々な分野での仕事、活動が、どこの地域でも展開されているわけであるが、それらは、決して別々のものではなく、否、別々に行われるべきものではなく、互いが協力し合いながら、問題・課題解決に当たる必要があるということである(だから、近年では、「協働」という概念が多用されるのもある!)!そして、その共有の目標が、まさに「地域共生社会の実現」ということなのである?!でも、それだけでは、有効な動きやしくみが見えてこない?!誰か(どこか)が、意図的、積極的に仕掛け、呼びかけなければ、現状は、なかなか打破されないのである!

そこに期待されるのが、そうした任務(横串を入れること?)を本来的に担う「社会教育主事」なのであるが、その任用・活動状況が今一つの実態があり(否、かなり悪化している?)、その一方で、その社会教育主事の資格を有し、誰(どこで)でも、その資格の有用性(と言うよりは、強き思い?)が発揮できる、新たな「社会教育士」の活躍が期待されるということでもある(もちろん、現実には厳しいものだが!)!

そこで、提出されているのが、①求める制度の主旨(社会教育士にどういう意味合いがあるのか/認知度の低さ/拡がるか否かを検証する/環境がどうあれば活かせるのか)②社会教育士としての活動(事例紹介:ほっと笑の活動・フリーで地域で活動している/教育協働セミナー参加者の、社会教育士としてのかかわり・可能性)③社会教育士の可能性(学びの要素を意図的・計画的にコーディネートができる/俯瞰的視野/より自覚的に自分自身で値づける座標の獲得/称号を得る前と後の行動変容)④課題(学校の中でもやっていたが、場をつくったことによって外部資源とつながりやすくなった/元教員という経験を役立てる/強みは何か/社会に開かれた教育課程/コミュニティスクールとの関係)ということなのである!改めて、当日(8/20)が楽しみである!(つづく)